

みんなの 恩多町

東村山市社会福祉協議会
恩多町福祉協力員会
令和6年4月発行
第49号



恩多町物語③ ～ 大岱稻荷神社の巻 (その1) ～

江戸寛永の時代からある大岱の鎮守様



大泉寺の別当、大岱稻荷神社

恩多町3丁目にある大岱稻荷神社は大岱村の鎮守である大泉寺の別当でした。1751年(寛永4)、名主當麻喜太史氏(現麻の実幼稚園創立者の祖先)が京都伏見稻荷大社から勧請したといわれています。ウカノミタマノミコトが祀られており、五穀豊穡、人々の安寧を祈願。明治維新後、大泉寺は無住であったため廃寺となり、神社だけになりました。

江戸後期から明治初期の建造物

小さな神社ではありますが、その造りはなかなかのもの。拝殿正面の頭貫(柱)には獅子や波間の亀、松竹などが彫られています。またお賽銭箱は、1996年の台風で折れた万年橋のケヤキの幹を捨てずに乾かして再利用して作られたものです。



盗難に遭っても戻ってきたお賽銭箱

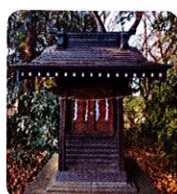
恩多町3丁目33番地
神社隣には大岱稲荷公園
野火止用水が傍らに流れ
近くには野火止水車苑

山岡鉄舟の幟、祭囃子に山車

毎年4月には春の例大祭が行われます。恩多町に滞在した折に書かれた山岡鉄舟直筆の幟(複製、本物はふるさと歴史館に)が掲げられ、山車(祭囃子)や子ども神輿、太鼓などが恩多町を練り歩きます。今年4月14日には4年ぶりに開催、神社を出発して坂下、万年橋、大岱小横、恩多辻などを巡ります。



社吹堂



金毘羅宮



御嶽神社・三峰神社



趣ある参道には奉納されたたくさんの灯籠

境内には 本殿の他にも神社など

二つの鳥居をくぐる長い参道の先に本堂拝殿がありますが、途中には三つの神社の境内社や、子孫繁栄を願う石仏信仰のご神体を祀る社吹堂などもあります。その他にも灯籠や石碑など、ゆっくりお参りしてみたいかがですか。

出典「新編武蔵風土記稿」「東村山歴史散歩49」「東村山市史研究第3号」など

あなたの自宅を最高の避難所にする!

痛ましいことに、今年は元旦から大きな地震が起きてしまいました。地震大国日本、加えて気候変動によるゲリラ豪雨など頻りに自然災害に見舞われている昨今、私たちは防災について「自分の問題」として、今一度、考えてみませんか。参考 NHK 明日をまもるナビ「在宅避難」より

避難所の受け入れには限界がある

大規模災害が起こると、水、電気といったライフラインがストップします。いざ避難所へ、と思いきや現実には避難所にすべての人が入れるとは限りません。特に大都市東京では被災者があふれかえります。避難所は自宅に住めなくなった人のための一時的な生活場所です。

自宅が居住可能ならば『在宅避難』を!

また、避難所はどうしても心身ともにストレスフルな環境にならざるを得ません。もし自宅が居住可能ならば『在宅避難』です。だからこそ「自宅を最高の避難所」にするための準備は何をしたらよいか、この機会に普段からの防災を見直してみましょう。



今から備えるならば お勧めはこれ!

① 多機能防災ラジオ



AM/FM ラジオ、ソーラー充電、手回し充電、USB の差し込み口、LED ライト、サイレンなど

② スニーカー



釘踏抜き防止用靴中敷き
枕元にスニーカーを常備、床に砕けたガラス破片などでへのけがを防止

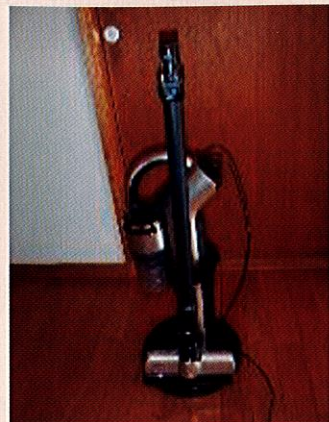
③ スマホ充電器(携帯用)



肩掛け用のスマホストラップも便利だよ!

電池式のスマホ充電器 普段でも携帯しているといざという時に便利
停電時の連絡や情報収集に欠かせないスマホ、電池切れはなんとしても避けたい

④ 充電式掃除機



床に砕けたガラス破片などの掃除に充電式の掃除機が有効。停電でもコードレスで使用できて便利。

⑤ 水無用の便利グッズ



断水時、便利な水のいらないシャンプーや液体歯磨き
赤ちゃん用のお尻ふきも乳幼児に限らず汎用性が大

平常時にこそ防災について情報やグッズのアップデートを。そして何より災害時にどう動くか、グッズは本当に使えるのかなど普段からシュミレーションすることが大切です。

また自治会など隣近所の方と防災の仕組み作りをしておくことも大事です。

『ご近所で互近助』
地域の防災について一緒に考えていきましょう

※電気火災を防ぐため感震ブレーカーの設置を! (2023「東京防災」)

いまずぐ準備したい 10 の備蓄品

- 水 (最低 3 日分を食料とともに用意)
- 食料 (ローリングストック 普段使いしながら備蓄)
- カセットコンロ、ガスボンベ
- スニーカー(寝ているそばに)
- 充電式掃除機
- 携帯ラジオ
- 懐中電灯・ランタン・ヘッドライト
- 携帯トイレ(凝固剤、猫砂も代用)
- 水のいらないシャンプー
- スイーツ缶 長期保存可能なお菓子 小豆は子どもの脳に良いとか。お好みのお菓子もぜひ加えてね

五中音楽部 OB から生まれた 奇跡の合唱団・コーロミラ コンサートはいつも満席♪

2022年4月に誕生して3年目となる混声合唱団コーロミラをご存知ですか? 東村山第五中学校音楽部の卒業生が中心となり、現在30名ほどで活動しているグループです。ちなみに、コーロミラの語源はイタリア語で、コーロ=合唱団、ミラ=羨望的、ミラコーロ=奇跡、という意味です。



混声合唱団コーロミラ(Coro Mira)の皆さん

コロナ禍に唯一できた奇跡のコンサート コーロミラ誕生へ

コロナ禍ですべての活動が自粛された3年前、五中音楽部で唯一できたのが3月の卒業コンサート。急遽決まったため練習期間は4日間でしたが、コンサートは大成功となり、まさに奇跡のコンサートであったと言われました。解散を惜しむ声は広がり続け、「卒業しても、どんな状況であっても、仲間と楽しく歌い続けたい!」との思いから誕生したのがコーロミラだったのです。



3月の「市民の集い」。最後は観客との大合唱で中央公民館が笑顔であふれた

指導は五中・音楽の佐々木先生と 合唱界のカリスマ的存在・田中先生

コーロミラを束ねるのは、五中音楽部顧問の佐々木由美子先生と、合唱指導で全国的にも大変有名な田中安茂先生。田中先生は、全国各地で音楽講習やコンクール審査などを行っており、何人もの教え子を全国レベルまで育て上げました。「音楽は心」と、田中先生は言い続けます。「聴いてくださる人々に感動を与えられるのは素晴らしいこと。そのために日々私たちは合唱をし、そして、生きているのだ」と、演奏のたびに実感するそうです。

一度聴いたらまた聴きたい! コーロミラは恩多町の身近な「推し」

世代やジャンルを超えて活動を広げるコーロミラ。今では東村山市の地域イベントにも引っ張りだことなりました。その地域イベントデビューは、1年前の恩多ふれあいセンターで開かれた第21周年祭。あまりの素晴らしさに感動した、との多くの声に「自分たちの歌声でこんなにも喜んでいただけるなんて!」と逆に驚いたそうです。コーロミラは単なるOB会ではなく、一般合唱団として、これからも積極的に地域に根付いた活動の輪を広げていきたいとのこと。どんな環境でも、どんな観客の前でも、コーロミラの歌声は聴く人すべての心に響き続けることでしょう。興味のある方は是非お問い合わせください。

恩多町には
たくさんのお宝人(ひと)
お宝事(ごと)がザクザク。
恩多町のたから
大きな舞台上で活躍する人から、
陰でコツコツと支えてくれる
人まで恩多町のお宝の
存在をご紹介します!



混声合唱団コーロミラ(Coro Mira)
練習 土曜日曜 月に2~3回(不定期)
場所 恩多ふれあいセンター、中央公民館など
連絡先 メール coromira2022@gmail.com

恩多町福祉協力員会活動報告

「さくらテラス青葉町」でのボランティア活動を再開



カラオケ機器は福祉協力員からの寄贈

コロナ禍の間ボランティア活動を中止していましたが、4年ぶりのこの2月にやっと再開できました。まだ外は寒かったので、館内ロビーを車いすで散歩をしたあと、カラオケで懐かしい歌をみんなで歌ったりおしゃべりしたり、大盛り上がりでした。利用者さんの笑顔に、参加した恩多町福祉協力員も会う事の大切さを改めて実感しました。



介護予防大作戦 in 東村山恩多町開催

昨年12月、恩多ふれあいセンターにて「介護予防大作戦 in 東村山」恩多町でのイベントが行われました。80名近く集まった参加者は、久保クリニックの久保先生による「社会参加でフレイル予防」の講演に熱心に耳を傾けていました。その他、健康体操や、協力員がお茶をふるまうコーヒブレイクコーナーなどがありました。



社協で福祉協力員会体験イベント

昨年12月、社協にて福祉協力員会の体験イベントが開催されました。全国的にも13町全町にこうした福祉協力員会があるのは珍しく、地域の方にもっと協力員会を広めようと企画されました。当日は恩多町からは協力員の佐藤さんと横山さんが体験談を話しました。

小学校のPTA会長になった時に社協とつながった。子ども達が地域に育ててもらっていることに初めて気づき、協力員会に入った。現在はミニコミ紙編集に携わっている(佐藤協力員)



新入会員紹介

2丁目 尾和真由美さん
宜しくお願いします

退職後、地域で何か役に立つことをと探していた。協力員会でサロン活動等を通じ、地域に繋がりが出来、自身の幅も広がったと感じている(横山協力員)



小中学校の子ども達から地域へ「ありがとう」のメッセージ

毎年協力員会は、大岱・野火止小の新1年生の下校見守り活動をしたり、小中学校前での挨拶運動や美化運動に協力したりしています。そんな中で令和5年度は嬉しいことがありました。中学生が地域の人達への感謝や恩返ししたいと作文に書いたり、小学生が、いつもお世話になっている地域の人を喜ばせたいと企画したイベントへの招待があったり。お互いに「ありがとう!」とつながる恩多町っていいですね♪



今冬何度かの雪、協力員作・雪(猫)だるま♪

小学生の卒業シーズンの中、この頃、毎朝の見守りで思い出すことがある。恩多町福祉協力員活動に、小学校新一年生の下校ボランティアがある。交通安全を兼ねた見守りが主体だ。私は大岱小を担当。五人から二十人のグループに分かれた子ども達と下校する。中には手をつなぐ児童もいてこの上なく可愛らしく思う。六年前のその子ども達がもう卒業、育つのはつくづく早い。強い気持ちを持って生き抜いてほしい。(仲間)

編集後記